

平成30年度第2回新潟市男女平等教育推進研究会概要

1 日 時 平成31年2月4日（月） 15:00～16:30

2 場 所 新潟市白山浦庁舎2号棟402会議室

3 出席者

(1) 委員（五十音順）

相庭 和彦	新潟大学大学院教育学研究科 教授
嵐田 浩二	新潟市立白根北中学校 教諭
岩崎 正法	新潟市立坂井輪中学校 教諭
内山 一敏	新潟市立月潟中学校 校長
片山 恒	新潟市立大淵小学校 校長
上所美樹子	市民生活部男女平等参画課 課長
熊倉 史記	新潟市立巻北小学校 教諭
小林由紀恵	新潟市立笠木小学校 校長
中林 浩子	新潟市立白南中学校 校長
樋口 玲子	にいがた女性会議 委員
松榮 尚樹	新潟市立竹尾小学校 教諭

(2) 事務局

齋藤 純一	学校支援課課長
石塚 崇	学校支援課総括指導主事
青木 博子	学校支援課指導主事

(3) 傍聴者

新潟女性会議 代表 鈴木由美子 氏

4 会議内容

(1) 課長挨拶

第3次新潟市男女共同参画行動計画は、2016年度から2020年度の5年間で推進する。評価指標である資料活用率100%が達成できるよう、今後も各学校に働きかけていきたい。

第1回新潟市男女平等教育推進研究会では、学習資料見直しについてのご意見をいただいた。その中で、登場人物のイラストや場面設定については、現代の実態に合わないものが多く、ぜひ見直しを検討していただきたい。

一方、現行の小学校3、6年生及び中学校2年生を、小学校3年から中学校3年の各学年対象に資料を作成する方向については、学校支援課として次のように考えている。

ちょうど学習資料改訂の年は、小学校学習指導要領の全面実施の年に当たる。その翌年は、中学校学習指導要領の全面実施である。各校では新しい教育課程の編成に取り掛かる。そこで、道徳、特別活動、社会科、家庭科など、各教科・領域において、男女平等教育の学習する内容を位置付けられる単元を示すことで、男女平等教育をより浸透させることができると考えた。つまり、重点化単元は今まで通り、小学校3、6年、中学校2年として、改訂を進める。さらに、学年において位置付けられる各教科・領域等の単元を示したいと考えている。

(2) 会長挨拶

課長の言う通り、今の時代はあらゆる場面、あらゆる機会をとらえて男女平等の機会を入れるのが大切である。よって、全学年に学習資料を作成するのではなく、現行通り、3, 6, 中2の資料を作成して、押さえながら全学年で取組を進めていくことをお願いしたい。

取組は小中高の教育実践を通して行っていく。

(3) 協議

- ◇ 知り合いの6年生の子どもが家に資料を持ち帰った。「先生からは何も言われなかった」とのこと。保護者への働き掛けはどのようにしているのか。
- ◇ 参観日での授業やお便りでの紹介をしている。持ち帰らせて、一緒に見るなどの働き掛けをしている。
- ◇ 進路指導の時、男女を区別しない指導をしていくこと。行政が学校にお願いするなどしてポイントを示す必要がある。資料作りに反映すること。
- ◇ 学習資料の各ページに、教科につながる文言を入れる。関連性を明確にする。ねらいはよいので、イラストや場面を変える。
- ◇ 保護者の意識を変えるためには、資料とともに便りを配付する必要がある。ひな形を作ってほしい。学年で年度末の懇談会や学習参観で配付できるようにしたい。
- ◇ 社会科と関連付けるなど、授業の指導案で関連付けて指導するとよく分かる。
- ◇ 大学生は男女平等の議論を生き生きと語る。授業では教わったが、自分の言葉で議論したことがなかった。生徒が話し合うワークショップにするとよい。家庭は、多様な家庭があることを教材化するとよい。
- ◇ 自尊感情が大切である。ほかの家庭とは違うということではなく、自分を大切にできることが重要だ。
- ◇ 女だから男だからではなく、多様な家族、多様な家事分担でよい。「男女平等」が子どもから出てくることがよい。
- ◇ 「男女」に偏りすぎていることに違和感がある。実態は違う。中学校3年生の「男女で」ではなく「みんなで」の意識が大切。人としてみんなが協力していくことが大切である。
- ◇ 多様な家族の絵があったとする。「私の家族はこれ！」となる。これが男女平等なのか？
- ◇ 家族の仕事と役割を示すとよい。
- ◇ 中学生のキャリア形成として、自己実現が必要だ。
- ◇ 表紙からすべて差し替える。「自分らしく」以外は差し替える。
- ◇ p11「男女別議員数」に差し替える。
- ◇ デートDV（県は平成15年度には入っている）、LGBTを入れる。県の男女別賃金の格差を入れる。
- ◇ 生徒は、カードの振り返りに何を書いていいかわからない。議論の湧くような資料や問いが必要だ。
- ◇ 結婚、男女、家庭に偏りすぎている。学級に寄ったほうがいい。男女イコール家庭・家族ではない。人の生き方は様々あってよい。
- ◇ 自分の意志で仕事を選択している仕事を提示できるとよい。それを生徒自ら探して議論するのがよい。
- ◇ 自分らしい生き方は、職業体験のキャリア教育、公民の教科横断で行うか。
- ◇ 今後は事務局中心にワーキングチームを作り意見交換会をもちたい。イラストの書き換えは必要だ。

- ◇ 男女平等参画課でも行動計画を作成して進めている。古い概念や阻害要因を明らかにして進め，十分に自分の能力が発揮できるよう，課でも全力で取り組む。